

科目名	外国法制研究	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）	
			法律学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Study of foreign law system	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	おかざき しょうへい	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	岡崎 頌平	修得単位	2単位	
授業のテーマ	ドイツ刑事法の概観			
授業概要	わが国の刑事法は、ドイツの刑事法から大きな影響を受けています。したがって、ドイツ刑事法（刑法・刑事訴訟法・刑事政策）を概観することで、わが国の刑事法に対する理解を深めることを目指します。			
到達目標	受講者は、本講義を履修することによって、ドイツ刑事法の基礎を学び、わが国の刑事法との異同を理解することができるようになる。			
授業時間外の学習	予習：テキストの該当箇所をあらかじめ読む 復習：講義を振り返るとともに刑法入門等のテキストの該当箇所を読み直す			
履修条件	刑法入門、刑法総論が履修済みであること（なお、いずれも単位を修得済みであることが望ましい）。また、刑法各論をあわせて履修することが望ましい。			
授業計画				
第1回	イントロダクション；刑法①（刑法の犯罪論）			
第2回	刑法②（刑法の諸原則、構成要件）			
第3回	刑法③（違法性、責任）			
第4回	刑法④（未遂犯、中止犯）			
第5回	刑法⑤（共犯、不作為犯）			
第6回	刑法⑥（過失、錯誤論①）			
第7回	刑法⑦（錯誤論②、刑法各論）			
第8回	刑事訴訟法①（総論）；中間試験			
第9回	刑事訴訟法②（起訴前手続）			
第10回	刑事訴訟法③（起訴手続）			
第11回	刑事訴訟法④（公判手続）			
第12回	刑事訴訟法⑤（法的救済手続）			
第13回	刑事政策①（制裁論）			
第14回	刑事政策②（責任と保安処分）			
第15回	刑事政策③（少年司法）			
第16回	定期試験			
テキスト	金尚均ほか『ドイツ刑事法入門』法律文化社(2015年)			
参考文献・資料	村上淳ほか『ドイツ法入門[改訂9版]』有斐閣(2018年)；平野龍一監修『ロクシン刑法総論第1巻[第3版]（翻訳第1分冊）』信山社(2003年)；山中敬一監訳『ロクシン刑法総論第1巻[第4版]（翻訳第2分冊）』信山社(2009年)；山中敬一監訳『ロクシン刑法総論第2巻(翻訳第1分冊)』信山社(2011年)；山中敬一監訳『ロクシン刑法総論第2巻(翻訳第2分冊)』信山社(2012年)			
成績評価の方法	試験 70%(中間試験 30%、定期試験 40%)、小テスト 30%			
成績評価基準	【平成27年度(2015)以前に入学した学生】 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 【平成28年度(2016)以降入学した学生】			

	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下) ※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日 13：00～14：30；木曜日 14：40～16：10
学生への メッセージ	予習でテキストを読む際は、ぜひ疑問点などをメモして、講義に臨んでください。